

概要

路線バス撤退で、高校生の意見も踏まえて公共交通を再構築！

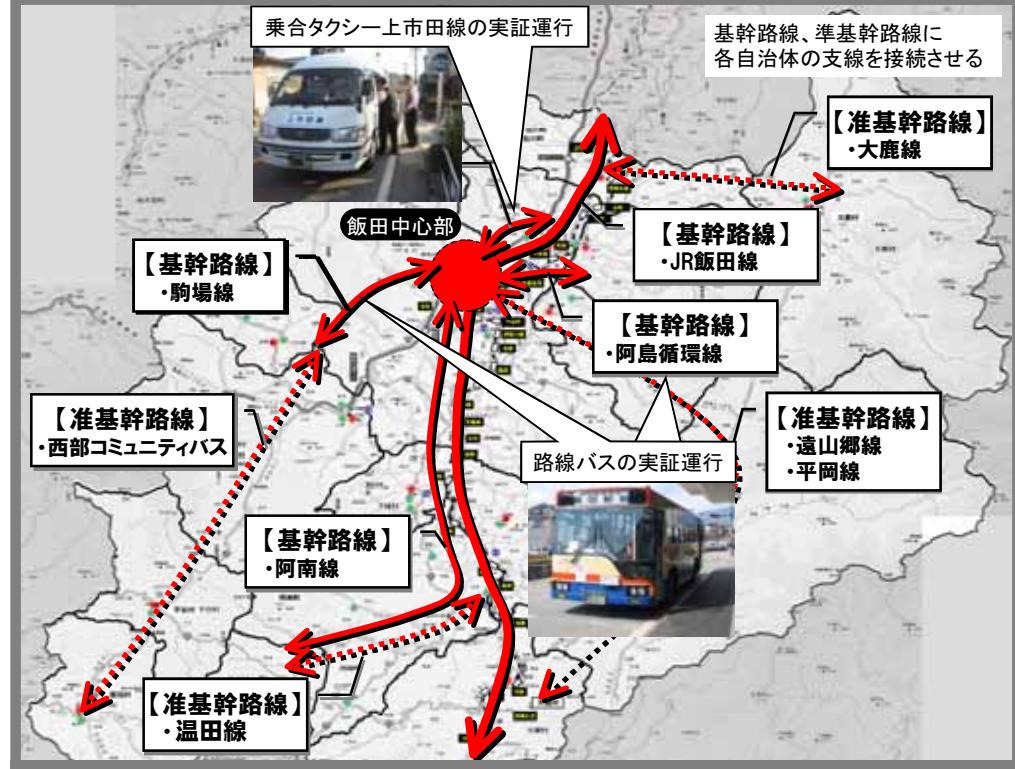
平成19年12月の地元バス会社による路線バスの撤退表明を受けて、平成20年3月に「南信州地域交通問題協議会」を設立し、平成21年3月に「南信州地域公共交通総合連携計画」を策定。

公共交通の利用者数の減少等の課題を踏まえ、効率的で利便性の高い公共交通の再構築を行うこととし、平成21年度から、阿島循環線、駒場線及び乗合タクシー上市田線の実証運行を開始。

地域の取組み

- 地域間幹線系統であるJR飯田線(鉄道)、「駒場線」(バス)、阿島循環線(バス)に接続する形で、乗合タクシー上市田線等の准基幹路線や支線を設定・運行し、高齢者の通院、高校生の通学等のための移動手段を確保。
- 関係者間で「駒場線」等の運行目的を明確化・共有した上で、運行目的・運行ニーズを踏まえた運行を実現するため、地域内の高校との懇談会の開催や高校生へのアンケート調査、乗込み調査等を実施。
- イベント開催期間中においてバスの利用料金を無料とするほか、公共施設利用者に対して片道分の無料乗車券を配布する等の利用促進策を実施。
- ①エリア・利用者・利用目的を踏まえた具体的な利用経路・時刻表 ②自家用車による交通事故のリスク並びに地球環境及び家計に与える影響を示した広報紙を発行するほか、全路線バスとJR飯田線の路線図を一覧表示した案内看板を作成しバス停に設置する等、「分かりやすい」公共交通の実現に努めている。

南信州公共交通



佐渡航路活性化協議会（新潟県佐渡市等）

総合事業

確保維持改善事業

概要

乗船スマート化などで離島航路の利便性を確保！

佐渡を訪れる観光客は、約120万人（平成3年）をピークに近年では約60万人まで減少している。観光客の増加には、航路も大きな役割を果たすことから、平成20年に「佐渡航路活性化協議会」を設立し、「佐渡航路地域公共交通総合連携計画」に基づき、『船旅』の魅力アップや、多様なニーズや利用者に対応したサービスの充実等、佐渡航路の活性化に資する事業を実施している。

佐渡航路地域公共交通総合連携計画のかんどころ <ターゲットと取り組みイメージ>

目標達成のための
取り組みの視点

【1】新たな観光メニューの創造と発信による
訴求力の強化

【2】船旅の満足感と感動を高める
ホスピタリティ向上

【3】運賃の多様化・手続きのスマート化

【4】島内二次交通サービスの充実



<佐渡航路（新潟～両津）の乗船スマート化 (利用者利便の向上と乗船手続きの時間短縮)>



インターネットによる予約
(QRコードの送付)
(24時間予約受付)
欠航等の運航情報も配信

平成24年3月31日
供用開始

概要

LRTをはじめ公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを！

富山市が目指す「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を推進するため、都心部を中心にLRT化等による公共交通の利便性と魅力の向上、さらには、まちづくりと一体となった公共交通の活性化策に取り組む。

1. 市内電車環状線化事業

地域公共交通活性化再生法に基づく軌道運送高度化実施計画の認定を受け、全国初となる公有民営の上下分離方式による市内電車の環状線化を実施。

環状線化の効果を把握するため、開業(H21.12.23)後継続して市内電車の利用者数等の動向調査を実施。

2. 車両装飾事業

富山地方鉄道(市内電車)及び富山ライトレールの利用促進を図るため、LRT都市サミット(平成23年度)などイベントに合わせ、低床車両(LRV)のラッピングや電停の装飾を実施。

3. ICカード導入推進事業

路面電車の利用促進と中心市街地の活性化を図るため、富山地方鉄道の市内電車にICカード(ecomyca)を導入し、富山ライトレールのICカード(passca)との相互利用を実現。

平成23年にはecomyca及びpasscaのICカードシステムに高齢者に対する割引(おでかけ定期)や乗車回数に応じた割引(オートワンデー)を行う機能を導入。

4. 地鉄不二越・上滝線活性化事業

地鉄不二越・上滝線(鉄道線)の活性化を図るための増発社会実験を実施。

5. 中心市街地活性化コミュニティバス運行社会実験

市内電車とのすみ分けや利用圏域の拡大、利便性向上などを目的に、運行ルートを見直し新ルートでの社会実験を実施。

6. 市民意識啓発事業

沿線住民を対象としたアンケート形式によるコミュニケーション施策やラジオ番組制作、フォーラム開催などにより、自発的な交通行動の変容を促す。



概要

スクールバスも活用して効率的な公共交通サービスを実現！

公共交通ができる限り維持・確保するため、地域の実情にあわせた公共交通サービスの効率化を図り、市民ニーズにあわせた公共交通を改編していくこととしている。

具体的には、スクールバスやコミュニティバスの活用や乗合タクシー運行区域の拡大や公共交通の利用を促す啓発活動を展開している。

1. スクールバスの一般客混乗の導入(24年4月～本格運行)

- ・スクールバスの空き時間を活用した一般客混乗の運行実験において、問題点・課題の抽出を実施し、本格運行を開始。

●三崎地区スクールバス活用による朝便の運行

2. スクールバスの見直し(調査・検討)

- ・スクールバスと路線バスが運行される路線において、路線バスによる通学の一本化などによる運行効率化を検討。

●木の浦線(東山中経由)とスクールバスの統合の検討

3. デマンド乗合タクシーの運行(24年4月～本格運行)

- ・新設路線を開設し、実証運行実験をおこなっていた交通空白地帯におけるデマンド型の乗合タクシーを本格運行開始。

●柏原・法住寺地区のりタクの運行

●乗木地区のりタクの運行

4. 市街地循環バスの効率的な運行(実証実験、調査・検討)

- ・まちなかバスすずらんの車両を活用した新たな市民サービスの提供実験をもとに本格運行。

●土日祝日のイベントなどにあわせたシャトルバス運行

5. 買い物客へのバス割引制度の導入(調査・検討)

- ・バス利用促進を図るため、買い物客へのバス割引制度の導入。

6. 会員制やバス応援券の導入などによる運行(調査・検討)

- ・「のりタク」の運行継続に向けて、運行費用の住民負担などについて協議。 ●地域による運行経費負担の検討

7. バス利用啓発の展開(調査・検討)

- ・各種実験に合わせてバス利用促進のPR活動及び、市民意識を把握するための調査を実施。

バス割引制度



買い物バス券

スクールバスと路線
バスの統合

シャトルバスの運行



のりタクの運行



三崎地区朝便運行



地域による運行経費
負担の検討



地域住民と協議 19